

# 小山よしもと県議会だより

2018年 盛夏号  
事務所 上越市士橋1669-4  
新町オフィス102  
電話 522-4400  
FAX 522-2933

## 新知事の不透明な原発姿勢 小山が代表質疑

### 花角知事の所信表明を受け



原発



6月県議会は6月27日に開催され、17日間の会期を持って7月13日に終了しました。  
米山前知事の辞職に伴って実施された県知事選挙で、激戦を制した花角英世氏が、新知事として臨んだ初めての県議会であります。

花角知事は所信表明で、「安全に安心して暮らせる新潟県の実現、元気で活力ある新潟県の実現を目指す」とし、人口減少問題や、原発の再稼働問題、新潟県産品の活性化や拠点性の向上などに特に力を入れて取り組む」としています。

この花角知事の所信表明を受け、各党・会派による代表質疑が行われました。  
私は「未来にいがた」を代表して代表質疑に登壇し、知事の政治姿勢や、原発問題など選挙戦で訴えたことに対し、この先上からの要請や圧力に屈せず、県民との約束を守ることをできるのかなど、論戦を展開しました。

### 民意は二分 権力に迎合しない姿勢を

**小山** 国などことごとく対峙する必要はないが、ときと場合によっては、県民の代表として権力に迎合することなく、国に媚びを売らない毅然とした姿勢を貫くことを、多くの県民は期待しているが、知事の決意のほどを伺う。

**知事** 県政の課題には、原発問題をはじめ、人口減少問題、医療や福祉の充実など、県の取組だけでは解決できない、国家的な課題が多く含まれている。

したがって、国としっかり連携を図り、言わばきこがればはつきり申し上げるなど、「県民最優先」の基本姿勢に基づき対応していく。

### 検証委員会の認識は

**小山** 本来、国がやるべき検証をやらなければならないから、福島原発事故の原因を追及する唯一の公的な議論の場となった検証委員会について、知事の認識を伺う。また、検証委員会の委員は変えることなく継続すべきと考えるが、どうか。

**知事** 原発が立地する本県として、県民の命と暮らしを守ることに第一であり、米山知事が進めていた3つの検証を、引き続きそれぞれの委員会、科学的、合理的な検証を進めていくべく考えている。

また、検証委員会メンバーは、変える理由は何もない。

**小山** 県知事選挙は、ほぼ民意が二分される結果となった。今後の県政運営に当たっては、選挙戦時における支持やしがらみに偏らず、政党に左右されない不断の姿勢で、広く県民の声を耳を傾け、県民全体の立場に立った県政運営が必要と考えるが、知事の姿勢を伺う。

**知事** 「県民最優先」の県政実現に向け、広く様々な県民の声を耳を傾け、県民全体の立場に立った県政運営を進めていきたい。

**知事** 「県民最優先」の県政実現に向け、広く様々な県民の声を耳を傾け、県民全体の立場に立った県政運営を進めていきたい。



### 政府等の圧力に屈せず、選挙公約を貫く

**小山** 県知事選結果でも明らかのように、県民世論の70%前後が原発の再稼働に反対である中、政府は原発を重要なベースロード電源と位置付けており、この先、再稼働を求める圧力が一段と強まること十分想定される。

自民党の支持を受けて当選した知事として、県民が納得しない限り原発は動かさないと、選挙戦で訴えてきた姿勢を、今後も一貫して持ち続けることができるのか、改めて知事の決意を伺う。

### 「県民に信を問う」トーンダウンか

**小山** 知事は、検証結果を受けて、自らの判断・結論を示し、4年後の県知事選、または辞職しての出直し知事選で、職を賭して県民に信を問うと主張してきた。

しかし、知事選において信を問うことは、知事任期中の原発問題以外の様々な評価が複合的に問われることになり、信の問い方としては、民意が十分に反映されず、適切な手法とは言えないのではないのか。

**小山の** 知事は当選後の記者会見で、「任期中の再稼働は当然あり得る」「全く動かさないと、100%動かすまで、すべてあり得る」と述べたマスコミ報道がある。

この発言の真意を質したが、「検証結果の先のイメージは誰も持っていないという意味では、何でもあり得ると思っっている」とのことで、真意のほどは。

**知事** 原発再稼働に対する姿勢については、選挙期間中から申し上げてきたとおり、県民が納得しない限り限り原発は動かさないとこの姿勢を貫いて行く。

**小山の** 「県民が納得しない限り限り原発は動かさないと」と答弁しているが、県民が納得する基準は何か、問い質しても答弁は不明確。

当選後、自民党本部で新潟県の物産展を開くなどの蜜月ぶり、自民党や政府の要請を断れるか、今後注視が必要。

**知事** 民意を確認する方法としては、議会での議論や、住民の直接投票等、様々な手法が考えられる。私としては、検証結果に対する責任を持って、結論の全体像を県民に示し、県民に信を問うことも含め、県民の意思を確認するプロセスが必要であると考えている。

### 民意不在の政治が続く

通常国会が終わった。文書の改ざん、隠ぺい、ねつ造は当たり前というおこりの政治、森友学園問題、加計学園問題などの政治の私物化は、誰一人責任をとらず、真相解明のないまま蓋が閉められた形となった。



# 泉田氏⇒米山氏⇒花角氏へ 引き継がれるか原発政策

特別企画

米山前知事の辞職を受け行われた知事選では、柏崎刈羽原発の再稼働問題が大きな争点となりました。原発再稼働に反対する野党系候補だけでなく、自民党の支援を受けた花角英世氏も「福島原発事故の検証総括がなされない限り再稼働の議論はしない」とし、米山前知事の行ってきた3つの検証を継承することを公約し、辛くも3万7千票差で当選を果たしました。

今回、泉田県政の頃から県議会傍聴を続ける「原発県民投票を成功させよう! みんなで決める会」共同代表の橋本桂子氏から「新たな知事を迎えた県の原発政策や県政について、県議会で重要な役割を担っている小山県議にお話を伺いたい」とのことから、会談・インタビューを行いました。



インタビュー風景

## 新潟県の原発政策は

福島原発事故後の新潟県の原発政策をどう評価していますか?

前米山知事は、元泉田知事の路線を深化させ、新たに3つの委員会を立ち上げました。

原発事故による放射能汚染から住民の命と健康を守ることは、原発立地自治体の責務であり、公的機関としての県の検証政策は、極めて重要な意味を持つものであります。

## 「市民と野党の結集」の強化へ

今日の国政は、地方に「不利益」を与えることが多いように感じます。

それだけに、地方議会における小山県議の果たす役割が一段と増していると思いますが、どのように受け止めていますか?

「一強」の安倍政権は、集団的自衛権の行使容認をはじめ、「特定秘密保護法」や「安保関連法」、「共謀罪」などを次々と強行制定してきました。

そして、今回の通常国会では、「残業代ゼロ法」とも言われる「高度プロフェッショナル制度」が包含された「働き方改革」なども強行制定され、本来であれば労働者の命を守るべき法律が、過労死を助長させることになってしまいました。

県議会で数少ない労働者の代表として、労働組合の皆さんと連携し、働く者の命と権利を守るため全力をあげて頑張ります。

また、この先、「憲法9条」の改悪も推し進められようとしており、戦後築き上げてきた平和国家日本のありようが、根本から崩されようとしています。

加えて、原発問題も同様な構図で推し進められることが想定されるなど、長期におよぶ安倍政権が、いかに市民の生活を脅かすものであるかを知っていただきたいと思います。

こうした政治に不安を抱える多くの市民の生活をどう守っていくか、それには「市民と野党の結集」を深化させ、強権政治に歯止めをかけるしかありません。

そのためにも、新潟の地においては、私・小山が「市民と野党の結集」の接着剤として、これまで以上に汗をかく必要があります。それが私に課せられた責務であると自覚し、地方からその先頭に立つ決意であります。

## 県民の民意は再稼働反対

前米山知事の辞職を受け行われた、今回の県知事選をどう見ますか?

自民党から手厚い支援を受けた花角さんが、米山路線を継承するとして原発再稼働に慎重な姿勢で臨んだことに、政府や自民党は苦虫を噛み潰していることと思いますが、それを許容しないと選挙に勝てなかったということでもあります。

マスコミの世論調査にも表れているように、今回の県知事選を通して、改めて多くの県民が原発の再稼働に反対していることが明らかになった選挙だったと思います。



**重要度増すリーダー役!**

## 花角新県政のスタート

花角知事になって最初の県議会で、小山県議は代表質疑に登壇し、「県民が納得しない限り再稼働はしない」「知事選で信を問うことも含め、県民の意思確認のプロセスが大切」などと、花角知事から答弁を引き出していました。これらについてどのように受け止めますか?

知事選での公約や、今回の議会答弁も含め、花角知事が原発再稼働への慎重姿勢を崩さず、県民の期待を裏切ることなく約束をきちんと守るかどうか、しっかり監視していかなければなりません。そのため、県議会で多数を占める自民党に対峙する必要があり、その相対する側のリーダーとして、私には従来以上の責務があると実感しています。

## 花角知事に期待することは

花角知事は、知事選、そして県議会でも「県民優先の県政」を主張していましたが、今後どのようなことを期待しますか?

「県民最優先の県政」を実現するという事は、県民の立場に立った県政を行うことだと思います。この先、柏崎刈羽原発の再稼働をめぐる、国や自民党などからどのような圧力が加かっても、県民の命と暮らしを守ることを最優先に、毅然とした姿勢を貫くことを期待します。

## 県議会にますます注目

昨年、小山県議たちが中心になって新党派「未来にいがた」を結成しましたが、どのような思いで行動されたのですか?

また、来春は県議選の年ですが、取り組みについてお聞かせ下さい。

県議会では、自民党が60%を占める圧倒的多数であるため、発議案などは自民党が出すもの以外は一切の否決や、議会でのポスト独占など、我が物顔で議事を牛耳っていることは、決して県民のためにはなりません。

このため社民党・民進党(当時)などが一緒になって「未来にいがた」を結成し、私・小山が代表となり頑張っているところであります。

来春の県議選では、県民のためにより良い審議ができる議会構成となるよう、良識ある候補者の出馬を期待しています。

そのためにも、「市民と野党の結集」で、無投票選挙区がないよう全県的な候補者擁立に向け、組織のリーダーとして汗をかきます。



数の横暴が際立つ県議会



県議会終了後、毎回街頭で行う「未来にいがた」の県政報告

2002年に発覚した東電のトラブル隠しを受け、小山県議が県独自の検証機関の必要性を訴え、平山県政において「県の技術委員会」が発足しました。そして、福島原発事故が起こり、「検証がなされない限り再稼働の議論はしない」と、原発再稼働に慎重な泉田知事の姿勢を小山県議は後押ししてきました。その泉田路線を引き継ぐ米山知事を、「市民と野党の結集」で誕生させ、「3つの検証委員会+検証総括委員会」という検証体制づくりの強化を働きかけたのが小山県議です。小山県議は、柏崎刈羽原発の再稼働に係る県民投票の条例案審議でも、直接請求した住民側に立つて尽力してくれました。すでに柏崎刈羽原発に対して国の「新規制基準」の適合判定が出されている中、再稼働への働きかけが一段と強まるこれらの時期、花角県政下においても、県民の暮らしと安全を守るため、一貫して原発問題に取り組んできた小山県議こそが新潟県議会に誰よりも必要な県議であると実感しました。



県議会傍聴を続ける「みんなで決める会」橋本桂子共同代表

インタビューを終えて